

# Rapport

2026  
Number

132

多摩大学 | 広 報 誌 |

## Vol.132 Contents

富高日向子選手 ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピック結果報告 ……	02
新井ゼミ「第9回和歌山県データ活用コンペティション」でデータ活用賞を受賞 ……	02
第17回 アクティブ・ラーニング発表祭 ……	03
2025年度 第2回 SRC ……	03
第14回「実学の帝塚山大学」実践学生発表祭に本学から2ゼミが参加 ……	03
多摩大ジャーナル No.48 ……	04
【ゼミ紹介】田中友理ゼミ ……	05
通学用 EV バス導入 ……	06
多摩大学学食の紹介 ……	07
2025年度 退任教員紹介 ……	07
寺島実郎監修リレー講座 現代世界解析講座 XIX 2026年度春学期 ……	08
多摩大学出版会のご案内 ……	08
公式 SNS ご登録のお願い ……	08



# 感動をありがとう！多摩大学スキークラブ 富高日向子選手

## ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピック フリースタイル女子モーグル 4 位入賞

多摩大学卒業生で本学スキー部出身の富高日向子選手が、2026年2月11日に行われたミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック フリースタイル女子モーグル決勝において4位入賞を果たしました。世界のトップ選手が集う舞台上で堂々とした滑りを披露し、多くの人々に勇気と感動を届けました。

準決勝を3位で通過した富高選手は、決勝において前回の北京2022冬季オリンピックでの19位から大きく順位を上げ、堂々のトップ争いを繰り広げました。惜しくもメダルには届かなかったものの、3位とは同点。ターン得点でわずか0.2点差の4位となりました。その一滑り一滑りには、これまで積み重ねてきた努力と覚悟がにじみ、見応えある決勝となりました。また、2月14日に行われたフリースタイル女子デュアルモーグルにおいても世界の強豪に果敢に挑み、7位入賞を果たしました。

富高選手は多摩大学在学中、中村その子教授のゼミでマーケティングを学びながらスキー部の選手として競技に取り組み、世界の舞台へ挑戦を続けてきました。大学3年生で臨んだ初出場の北京2022冬季オリンピックでは19位という結果に終わり、悔しさを胸にさらなる成長を誓いました。その後も着実に力を伸ばし、2025年3月の世界選手権では見事2位に入り、世界トップレベルの実力を示しました。

卒業後は本学スキークラブの所属選手として競技活動を続け、今回のミラノ・コルティナ大会でも安定したターンと完成度の高いエア、そして攻めのスピードで存在感を発揮し、多くの人々に感動を届けました。

なお、富高選手は今シーズンをもって現役を引退することを表明しています。大学ではこれまでの競技人生を振り返る報告会を2026年4月に開催する予定です。大会の様子やこれまでの歩みの詳細は、特設サイト (<https://ski.tamauniv.jp/>) で紹介しています。

○詳細は、QRコードよりご覧いただけます。



安定したターンを決める富高日向子選手 ※写真は過去大会のものです。



3月5日、富高日向子選手を迎え、学内に歓迎セレモニーを執り行いました。

### 新井ゼミ「第9回和歌山県データ利活用コンペティション」でデータ利活用賞を受賞

2025年12月13日に開催された「第9回和歌山県データ利活用コンペティション」最終審査会において、本学経営情報学部 新井崇弘ゼミ（以下、新井ゼミ）に所属する学生7名のチームが「データ利活用賞」を受賞しました。

本大会は、和歌山県が総務省統計局や独立法人統計センターと共に、データ利活用の重要性・有用性の発信と、次世代を担うデータサイエンス人材を育成すべく、行政課題に対するデータを利用した解決アイデアを募集するものです。

今回は全国の高校・大学から総勢271チームがエントリー。その中での受賞は極めて大きな快挙といえます。

新井ゼミチームの提案タイトルは、「データで探るこどもの“生きづらさ”～不登校と自殺問題から考える新しい支援のかたち～」です。学生たちは、現代社会の深刻な課題である「こどもの生きづらさ」に着目。多摩市のデータを活用し、不登校や若年層の自殺問題の背景に潜む要因を定量的に分析し、既存の枠組みを超えた「新しい支援のあり方」を具体的に提案しました。

今回の受賞を受け、12月25日には学生と新井崇弘専任講師が多摩市役所を訪れ、阿部裕行市長を表敬訪問しました。報告会では、学生たちが自ら研究成果をプレゼンテーションし、データ利活用が地域の課題解決にどのように貢献できるか、そして今回の研究を通じて得た知見や将来の展望について熱心に語り、阿部市長から温かい激励の言葉をいただきました。



授賞式の様子



阿部裕行多摩市長を表敬訪問

○新井崇弘ゼミの紹介動画は、QRコードよりご覧いただけます。



# 第17回多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭

多摩大学では、多種多様なプロジェクトや研究などのアクティブ・ラーニングプログラムを展開しています。その活動の成果を共有する機会として、2025年12月13日に『第17回多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭』を開催しました。

当日は、質疑応答も含め1チーム20分の持ち時間で発表が行われました。高大接続の取り組みとして多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校、多摩大学目黒中学校・高等学校による成果発表に加え、招待発表として帝塚山大学（奈良県奈良市）、東京経済大学（東京都国分寺市）にもご参加いただきました。19チームが登壇し、それぞれの学修成果や実践的な取り組みについて発表を行いました。

○プログラムの詳細はQRコードよりご覧いただけます。



## 2025年度第2回SRC (Student Research Conference)

2026年1月28日、多摩大学経営情報学部において「2025年度第2回SRC (Student Research Conference)」を開催しました。SRCは、学生がホームゼミで取り組んできた研究成果を発表する場として、年2回（夏・冬）実施しています。当日は、発表と質疑応答を含めShort（10分）、Long（15分）の持ち時間で、卒業研究を含む80件を超える研究発表がありました。

研究のテーマは、教育・社会・経済・スポーツ・地域課題など多岐にわたり、各会場では活発な質疑応答が展開され、教員、学生からの質問や意見、助言を通して研究をさらに深める機会となりました。

○発表タイトル等については、QRコードよりご覧いただけます。



## 第14回「実学の帝塚山大学」実践学生発表祭に本学から2ゼミが参加

2026年2月28日、帝塚山大学東生駒キャンパスにて開催された「第14回『実学の帝塚山大学』実践学生発表祭」に本学からインターゼミ（サービス・エンターテインメント班、担当教員：バトル、宮本純至、大竹英理子）と松本祐一ゼミの2チームが参加しました。

「学術交流に関する包括協定」を結ぶ両大学は、年間を通じて活発に交流しています。当日は大阪電気通信大学を含む3大学が集結し、計11件の多彩な教育研究事例が発表されました。

### 1. インターゼミ（サービス・エンターテインメント班）

1年生2名が登壇し、「多角的に捉えた地域活性化 ～沖縄の過去・現在・未来～」をテーマに発表。沖縄の歴史的背景や基地問題、経済課題をマクロ・ミクロの両視点から分析しました。特に、新テーマパーク「JUNGLIA」やスポーツビジネスを事例に、教育と人材投資を土台とした「持続可能な経済の4層構造モデル」を構築。1年生ながら、地域のハブ機能を強化する重要性を論理的に説きました。

### 2. 松本祐一ゼミ

3年生2名が「東京多摩における地域をつなぐ商品開発」について報告。2026年1月に学生自らが経営主体となる「合同会社松本ゼミ」を設立した経緯や、奥多摩産のヒノキを活用したクラフトビール「KIKI」、特産品を生かした「わさび餃子」の共同開発事例を紹介しました。学外との調整や段取りの難しさなど、実社会の「壁」に直面しながらも地域を盛り上げようとする、学生たちのリアルな活動発表に注目が集まりました。

今回の発表祭は、異なるフィールドで活動する学生が一堂に会し、地域課題への多角的な視点を学ぶ貴重な機会となりました。昨年12月に本学で開催された「アクティブ・ラーニング発表祭」への帝塚山大学の参加に続き、大学間の絆もさらに深まりました。本学は今後も、こうした「実学」の教育を通じて、学生の主体的な活動を支援してまいります。



本学学生による招待発表の様子

## 税理士試験で身につけた力

外園 光雅 経営情報学部 4年

私は大学生生活と並行して税理士試験に挑戦し、「簿記論・財務諸表論」に合格することができました。これらは合格率が非常に低く、学習量も膨大で、理解力が強く求められる難関試験です。

約2年にわたり、1日5時間程度、直前期には8時間程度の学習を継続してきました。この経験を通して、難しい課題に対しても粘り強く取り組む力が身についたと感じています。学習を進める中で特に支えとなったのは、望月明彦先生（以下、望月先生）のご指導でした。授業の前後には面談の機会があり、勉強方法の改善や学習の進め方、さらには、将来のキャリアについても丁寧にアドバイスをいただきました。

会計の知識をただ覚えるのではなく、「なぜこの処理を行うのか」「この数字は何を表しているのか」を考えながら解き方を重視して学ぶことで、知識をより深く理解することができるようになりました。「簿記論・財務諸表論」の学習では、思うように成果が出ない時期もありましたが、基礎を大切に、取り組み方を整理しながら学習を続けることの意義を学びました。

今回の合格は一つの区切りではありますが、税理士試験を通して、見つけた継続力・思考力・自己管理能力、そして望月先生のご指導のもとで学んだ姿勢を今後も大切に、お客様一人ひとりに寄り添うことのできる税理士を目指していきたく思います。



望月先生との勉強会

## 〈多摩大学経営情報学部 望月明彦准教授からのメッセージ〉

初めて外園さんとお会いしたのは、彼が大学3年生になったばかりの4月下旬でした。簿記の勉強を始めてまだ数か月にもかかわらず、税理士を目指す強い決意を語ってくれたことが強く印象に残っています。

外園さんの合格は、高校・大学のフットサル部で培った体力と精神力、そして日々の積み重ねの賜物だと思います。今後も、持ち前の粘り強さと笑顔を生かし、専門家としての第一歩を力強く踏み出されることを期待しています。



## 街に灯した ピンクの光

木村 美らら グローバルスタディーズ学部 4年

私は、いじめ防止活動「ピンクシャッター」の実行委員として、地域全体を巻き込んだプロモーション施策の企画・実行に力を入れて取り組んできました。本活動は、大学1年生の夏（2022年）にスタートし、毎年2月の最終水曜日に実施されるピンクシャッターに向けて継続的に活動を重ねてきました。2026年の今年で4回目を迎えます。

本活動では、視覚的なインパクトと人とのリアルな接点を最大化することを意識し、主に4つの施策を展開しました。

まず1つ目は、街中に広げるポスター掲示です。茅ヶ崎市内の地域店舗を一軒一軒訪問し、活動の趣旨を直接説明した上で掲示を依頼しました。2つ目は、茅ヶ崎駅前の



2022年夏、茅ヶ崎観光協会との企画会議



「サザンC」ライトアップ企画成功

街頭キャンペーンとして、認知度向上を目的にフライヤー配布を行いました。3つ目は、茅ヶ崎市のシンボルである「サザンC」を活用したピンクライトアップの企画です。茅ヶ崎観光協会の方々には協力を仰ぎ、地域と連携した取り組みとして実現に至りました。実際にライトアップを見た方から「何のイベントなのか」と声をかけられる場面もあり、自然な形で多くの方に関心をもっていただくきっかけになったと感じています。そして4つ目として、これらの取り組みをSNSで発信し、オンラインとオフラインを連動させることで、より広い層への発信を意識しました。

大学生生活4年間を通して、世代や立場の異なる多くの方々との出会い、地域の中で共に活動できたことは、私にとって大きな財産となりました。これらの経験を通して、メッセージを一方的に届けるのではなく、人との対話や体験を通じてこそ、想いは心に残る形で社会に伝わるのだと学びました。

今後の目標は、誰かの小さな声に気づき、行動につなげることで、優しさの輪を社会に広げていくことです。ピンクシャッターでの経験を原点に、感謝の気持ちを忘れず、社会と関わりながらこれからも精進していきたいと考えています。



駅前でのフライヤー配り

## 経営情報学部

## 田中 友理 ゼミ

## 田中 友理 (タナカ ユリ) 専任講師 プロフィール

明治学院大学心理学部心理学科卒業後、名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻博士前期課程に進学し、修士(心理学)を取得。同大学院情報学研究科心理・認知科学専攻博士後期課程単位取得満期退学後、2022年より現職。専門は社会心理学であり、道徳判断や対人認知に関連する研究をおこなっている。主に初年次科目、データ分析関連科目、心理学に関連する科目を担当している。



## 社会心理学を通して、考える力と伝える力を育てる。

田中ゼミは、社会心理学をテーマに、「研究」と「発信」の2本の柱を中心に活動しています。「研究」では、心理学の研究手法を学び、知見がどのように明らかにされてきたのかを理解したうえで、自ら研究を実施できるよう演習を重ねます。「発信」では、心理学分野で得られた知見を、他の人に分かりやすく伝えることを大切にしています。後述する「マチカドこども大学」のほか、これまでに地域の子ども向け夏まつりへの出展や、多摩祭での心理学関連展示なども行ってきました。

田中ゼミは2023年度に開講し、今年度は第1期生が卒業を迎える年となります。「研究」と「発信」を中心に据えながら、それぞれの学年の個性に合わせて、多様な活動を行っています。

ゼミ1期生(現4年生)は、卒業論文の執筆に取り組んだ1年間でした。各自が研究テーマを定め、データ収集・分析を行い、卒業論文としてまとめました。ゼミで培った力を発揮し、苦労しながらも集大成として論文を書き上げた姿が印象的でした。

ゼミ2期生(現3年生)は、「研究班」と「教育班」に分かれて

活動しました。「研究班」は、第一印象に関する社会心理学研究をもとにグループ研究を実施し、その成果をSRC(学内学生研究発表会)で発表しました。「教育班」は、川崎市の小学生を対象とした地域講座「マチカドこども大学」において、対人関係に関する心理学の授業を実施しました。テーマ設定から授業構成、ワーク内容までを学生自身が考えました。

ゼミ3期生(現2年生)は、「データを集め、分析する」演習を繰り返し、心理学研究の基礎を身につけました。春学期には心理学で用いられる測定方法を調べ、オープンキャンパスで高校生に紹介しました。その後も、Googleフォームによる質問紙調査や、多摩祭でのドリンク販売時のアンケート実施などを通して、データを収集・分析し、結果から何が言えるのかを考える力を養いました。

今後も学生それぞれの個性や成長段階に合わせた活動を行いながら、「学びのスキルを培うこと」「心理学を楽しむこと」を大切にしたいゼミ運営を続けていきます。



ひじり館夏祭り



マチカドこども大学



SRCのポスターセッション

## ●相部 羽也斗 経営情報学部 4年

田中ゼミに入った理由は、1年次のときに田中先生が「同期」として大学に着任されており、ゼミの1期生になって自分たちの温度感で居場所を創りたいと思ったからでした。専門性に特化した他ゼミより「自然体」でいられる気がしてこのゼミを選びました。この3年間、社会心理学をベースに、調査や分析の手法をじっくり学んできました。4年間の集大成である卒論では、田中先生の手助けをいただきながらも、自ら決めた題材と向き合い、形にすることができました。

## ●柴 唯人 経営情報学部 3年

私は「マチカドこども大学」で、小学生を対象に心理学の授業を行いました。自分たちでスライドを作成し、フリガナを振ったり分かりやすい言葉に言い換えるなどの工夫を凝らした結果、「とても分かりやすかった」「勉強になった」といった嬉しい反応を頂きました。この活動を通して、人に教えることの楽しさと同時に、その難しさも実感しました。こうした貴重な経験ができるのは、田中ゼミならではの特権だと思っています。

## ●橋本 暁 経営情報学部 2年

田中ゼミを選んだのは、元々マーケティングについて学びたいと考えていたことや、心理学について自分自身興味があったためでした。今年のゼミ活動では、多摩祭でドリンクを販売し、そのデータを用いて何がドリンクの購買意欲に繋がっているのかを調べました。ゼミではグループで活動することが多く、安心してゼミ活動に取り組むことが出来ました。今後はゼミで学んだ「収集→分析」を最大限活かせるように取り組んでいきたいです。

## EV バス導入から広がる —環境と地域を支えるキャンパスへ—

多摩大学多摩キャンパスでは、持続可能な社会の実現と地域防災力の向上を目指し、通学用 EV（電気）バスの運行を開始しました。

今回導入したのは、BYD JAPAN 製の EV バスです。従来のディーゼル車と比べて CO<sub>2</sub> 排出量を大幅に削減できるほか、安全性・耐久性にも優れ、学生の快適な通学環境の向上に貢献します。そして、本取り組みは、環境負荷の低減に加え、キャンパスの防災強化や地域貢献に発展するものです。

### ■ 災害時にも機能する「動く電源」

多摩キャンパスでは、太陽光発電設備と蓄電池を活用したエネルギー供給体制を整備しています。

発電した電力を EV バスの充電に活用することで、平常時はクリーンな通学手段として、災害時には非常用電源として活用できる体制を構築しました。EV バスは、環境対策であると同時に、いざという時に電力を供給できる「動く電源」としての役割を担います。

### ■ 地域を支える防災体制の強化

多摩大学は、災害発生時に多摩市の防災拠点の一翼を担う「防災拠点化構想」を推進しています。

多摩キャンパス施設は、多摩市において、他自治体等から届く支援物資の受け取り・仕分け・市内各所への配送を担う地域内輸送拠点として活用が可能です。自治体や関係機関と連携し、これからも地域の防災力向上と災害からの迅速な復旧に貢献します。



EVバスで通学する学生たち



導入された通学用EVバス

### 【主な取り組み】

#### 水

大学に隣接する多摩市の「応急給水拠点」



#### 電力

再生可能エネルギーを活用した電力の蓄電および、災害時における避難者への電力提供



#### 避難所機能

多摩市の「指定緊急避難場所」



#### 防災対応・教育

- ・災害に強いサーバーの確保
- ・ソーラーパネル設置
- ・災害用調理設備の整備
- ・「防災学概論」等の開設



多摩大学はこれからも、学生・地域社会・地球環境に貢献する大学として歩みを進めてまいります。

多摩大学 防災拠点化構想については QR コードよりご覧いただけます。➡



## 学食スタッフと学生が心を込めて作る!多摩大学多摩キャンパスの学食

多摩大学多摩キャンパスの学食では、料理長をはじめスタッフ、学生アルバイトが力を合わせ、毎日の食事を支えています。学生が満足できるよう、栄養バランスを考えた献立作りはもちろん、入口の券売機から料理の受け取り方法、テーブルや椅子の配置まで、快適に利用できる環境づくりにも心を配っています。

### ■ 人気メニューランキング

- 1位 麻婆豆腐丼 400円(税込)
- 2位 キーマカレー 400円(税込)
- 3位 豚バラ豚骨醤油ラーメン 400円(税込)

どのメニューもリピーター続出!!  
学生たちの毎日を支える人気の料理です。



### 麻婆豆腐丼



### キーマカレー



### 豚バラ豚骨醤油ラーメン



### ■ メニューづくりを担う学生アルバイトの活躍

今回は学生アルバイトとして活躍する牛込 将晟さん(経営情報学部4年)と、金子 一真さん(経営情報学部2年)のお二人に、どんな仕事をしているのか、お話を伺いました。

牛込さん: 栄養士さんと相談しながら、毎日のメニューを考えています。牛チゲスープや牛肉の炊き込みご飯など、オリジナルメニューを考えることもあり、自分たちのアイデアが実際に学食に並ぶのが嬉しいです。栄養バランスが良いメニューを提供できるよう心がけています。

金子さん: 学食のメニューポップを作る際は、文字のインパクトで「これ食べてみたい!」と感じてもらえるよう工夫しています。また、異国の料理や他県のソウルフードが登場する時には、地名を入れて紹介し、学食をきっかけに少しでも外の世界に興味を持ってもらえたらうれしいです。

学生アルバイトの皆さんは、来てくれる方々に喜んでいただけるよう、新しい料理のアイデアを学生から募集するなど、「学生の声」を形にする取り組みも進めています。

### ■ さいごに

多摩キャンパスにご来校の際は、ぜひ学食にお立ち寄りください。  
学生とスタッフが心を込めて作る、温かい食事をお楽しみいただけます。  
本学食は授業期間中(4月~7月/10月~1月) 11:00~14:00のみ営業しております。  
※学内行事や試験期間等、営業を行わない場合があります。



一つひとつ丁寧に食事を提供する牛込さん



学生を優しく案内する金子さん

## 2025年度 退任教員紹介

2026年3月31日付



経営情報学部  
中村 その子 教授



経営情報学部  
中村 有一 教授



グローバルスタディーズ学部  
Brian English 教授



グローバルスタディーズ学部  
大竹 英理子 教授

長年にわたる研究・教育活動に心より感謝申し上げます。  
これまでのご尽力、誠にありがとうございました。

## 「変わる世界秩序と日本の針路」

トランプ、習近平、プーチンという強権支配が際立つ中で、21世紀の世界秩序の構築が静かに進行しつつある。その中で、日本は「埋没と沈黙」を続けるのか。日本に問われるのは柔軟で強靱な構想力である。

日本の未来と、「大河の一滴」でもある個人の役割、生き方を模索していきたい。

【会場】多摩キャンパス 001 教室 【時間】14:50～16:10 (受付開始 14:00) 【受講料】一般 15,000 円 (全 12 回分)

特別割引受講料 13,000 円 \*多摩大学後援会会員、多摩市および稲城市の在住・在勤者、他大学学生、多摩大学卒業生・大学院修了生

【ライブビューイング受講料】8,000 円 (湘南キャンパス)

【インターネットオンデマンド(録画)受講料】〈講義資料ネット配信方式〉12,000 円

【主催】多摩大学 【後援】多摩市、多摩信用金庫 【監修】寺島実郎 (多摩大学学長) 【HP】<https://www.tama.ac.jp/relay/>



	開講日	講師 (敬称略)	肩書・役職等	テーマ
1	4月16日(木)	寺島 実郎	多摩大学 学長 (一財) 日本総合研究所 会長	「世界認識と再構築—21世紀秩序と課題」
2	4月23日(木)	河野 龍太郎	BNPパリバ証券 経済調査本部長・チーフエコノミスト 東京大学先端科学技術研究センター 客員教授	「日本経済の死角」
3	5月7日(木)	竹中 千春	立教大学法学部 元教授 早稲田大学・上智大学・立教セカンドステージ大学兼任講師 一般財団法人 NHK 財団 理事	「分裂し緊張する世界の中のインド —その内政と外交」
4	5月14日(木)	韓 準祐	多摩大学グローバルスタディーズ学部 准教授	「観光まちづくり—研究と実践を振り返る」
5	5月21日(木)	植木 雅俊	仏教思想研究家	「思想闘争としての仏教史 原始仏教・小乗仏教・大乘仏教、そして法華経まで」
6	5月28日(木)	前嶋 和弘	上智大学総合グローバル学部 教授	「アメリカ政治外交の現在と世界、そして日本」
7	6月4日(木)	寺島 実郎	多摩大学 学長 (一財) 日本総合研究所 会長	「歴史認識の中での日本近現代の意味」
8	6月11日(木)	桜田 一洋	慶應義塾大学医学部 教授	「AI を駆使して疾患に迫る ～新しい科学が拓く医療の地平～」
9	6月18日(木)	元村 有希子	同志社大学生命医科学部 特別客員教授 科学ジャーナリスト	「科学・技術とどう向き合うか ～ケアとコミュニケーションの時代～」
10	6月25日(木)	高橋 彰	多摩大学経営情報学部 専任講師	「トランプ政権下で変容するアメリカ軍 ～軍事行動、同盟、国家戦略を起点として～」
11	7月2日(木)	後藤 謙次	白鷲大学 名誉教授 共同通信社 客員論説委員	「「高市最強政権」の現状と展望」(仮題)
12	7月9日(木)	寺島 実郎	多摩大学 学長 (一財) 日本総合研究所 会長	「世界の構造変化の中で日本が進むべき道」

【お問い合わせ】多摩大学寺島実郎監修リレー講座事務局 TEL: 042-337-7300 / FAX: 042-337-7103 Mail: relay@gr.tama.ac.jp

### 多摩大学 出版会 のご案内



詳細はこちらから

多摩大学出版会は、学術関連図書及び教科書の刊行・頒布を主たる事業とし、本学の研究・教育活動とその成果発信を支援しています。これまで本学教授陣による多彩なテーマの出版物を刊行し、学術・教育・文化の振興に貢献しています。

〈最新出版物〉

- 『多摩大学インターゼミ(社会工学研究会) 17年の軌跡』  
(総監修)寺島 実郎
- 『配当政策の史的考察』 (著者)落合 孝彦
- 『介護人材養成の国際化に向けた課題』  
—インドネシア人介護労働者の送付と受容に注目して—  
(著者)杵淵 洋美



①



②



③

### 公式 SNS ご登録のお願い

多摩大学公式 SNS では、ゼミ活動やサークル、各種大学イベント、教員の研究など様々な取り組みを発信しています。ぜひ、公式アカウントをフォローしていただき、日々の活躍の様子をご覧ください。

公式 Instagram  
(経営情報学部)



公式 Instagram  
(グローバルスタディーズ学部)



公式 X



公式 Facebook



公式 YouTube

